

エカシ・フチのための温泉付き公的ホームの早期実現を求める陳情

(要旨)

アイヌ民族の長老（エカシ・フチ）たちのために定山溪に温泉付きホームを早急に建設されたい

(理由)

現在のアイヌ民族の状況を考えますと『アイヌ新法』が成立したにも関わらず施策が一向に前進する気配を感じません。この現況を深刻に受け止め変えたいと思います。

そこで、まずエカシ（長老）・フチ（媪）の高齢化と一人暮らしが急激に進行している中で、長い間苦勞してきた私たちの先輩たちが安心して楽しく過ごせる場所として、定山溪に温泉付きホームの建設を求めます。定山溪は、山、川が近くアイヌ民族の自然観を活かした社会が形成されることが十分考えられる場所です。

そのホームで、エカシ・フチたちがアイヌ文化を若者たちに教え、老若男女が一緒になり先住民族アイヌの文化を誇りを持って継承活動をしていく。その事が真のアイデンティティーとなる精神性を発揮する場となります。

札幌市南区小金湯にある札幌ピリカコタン（札幌市アイヌ文化交流センター）と連携させ、札幌市民や観光客、アイヌ同族と世界の先住民族が交流できる新構想のインネコタン、ポロコタン（心の良い人、すばらしい人が住む村）にしていただきたく陳情いたします。